

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日  
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30 ~ 13:30  
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL <0566>22-2111  
FAX <0566>25-2111  
メール kariyac@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 加藤 哲也  
幹事 久米 博明  
会報委員長 鬼頭 一浩

2016 ~ 2017年度 国際ロータリー ジョン F. ジャーム 会長テーマ

Rotary serving humanity 人類に奉仕するロータリー

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2937回例会プログラム

[当年度 = 5 回目; 当月 = 2 週目]

2016年 (平成28年) 8月 8日(月)

## 1. 例会……………〈司会: プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……………〈副会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……………我等の生業  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事

## 12:45 7. 副会長挨拶並びに副会長報告

8. 幹事報告  
9. 出席報告

## 10. 委員会報告

## 11. ニコニコボックス報告

## 12. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(8/15) ……

休会 (クラブ定款第 6 条第 1 節 (c))

(8/22) ……

クラブ協議会

ガバナー補佐訪問

## 13:00 13. 本日のプログラム

卓話 「帰国報告」

講師 2015-16 青少年交換学生

江坂 悠奈 様

(紹介者 下谷 敏朗 会員)

## 14. 謝辞

## 15. 点鐘……………〈副会長〉

## 16. 閉会宣言

13:30 17. 散会

## 出席

会員総数 93名 出席免除 24名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名  
欠席 17名 出席率 79.76%  
前々回 (7/25) の修正出席率 100%

## 副会長報告

- 1) 8月6日、本年度青少年交換学生の吉岡宏祐君がカナダに向けて出発されましたので、見送りに行ってまいりました。

## 幹事報告

- 1) 本日メールボックスに、ロータリー財団の確定申告用寄附金領収証を配布させて頂きました。ご確認をお願い致します。

## 副会長あいさつ

## 音楽会でのハプニング

橋 典子



音楽会では時々、思わぬことが起きます。私の経験した一つに、ウィーンでオペラをみていた時、舞台上で、プリマドンナがアリアを歌っていました。舞台は素晴らしいセットでいろいろな演出が行なわれ、テーブルの上にはろうそくの燭台、プリマドンナはかつらをつけて昔のロングドレスです。その時、ろうそくの灯が彼女

のかつらに燃え移ったのです。観客はいちやく気づきましたが、歌っている本人はまだ気づきません。そして舞台のそでで気づき、1人の男性が現われ、彼女を舞台のそでにすばやく誘導しました。もう彼女は気づき、悲鳴にちかい声をあげていました。会場は騒然とし音楽は中断、しかし歌い手はほどなくして舞台に現われ、音楽は再開、もうすごい拍手で迎えられ、何事もなかったようにオペラは先にすすみ、無事に公演はおわりました。

又友人で音楽事務所をやっている人がいます。彼女は名古屋のホールのこけらおとしてウィーンフィルの弦楽四重奏団を日本へ招聘しました。ところが4人のうち1人が盲腸炎になってしまい、残りの3人でコンサートをしなければならなくなりました。まず曲目を変更し、その楽譜を買いに走り、そして聞きにきてくださるお客さまのことを考えるとピアニストをいれて少しはなやかにしようということで、日本人のピアニストに共演してもらい、皆さまに満足していただき胸をなでおろしました。音楽会は本当に何が起きるかわかりません。

## 卓 話

### 「帰国報告」

2015-16青少年交換学生  
江坂 悠奈 様



フランスに留学できると知ってから私は大きな期待でいっぱいでした。家族や親せき、友達に送り出しのパーティーをしていただいても、友達が涙を流してくれていても、私は心配のかけらもなく、ただただわくわくした気持ちでいっぱいでした。留学生活の1年間で私はとてもたくさんの経験をしました。留学できたからこそ経験できたことがたくさんあります。多くの壁にもぶち当たったし、いいことばかりでもありませんでした。私はホストファミリーになっていただいた家族には感謝しきれません。特にフランス語は私にとって本当に大きな壁でした。出発前に少しは勉強して行ったものの、現地の会話はとてもスピードが速く、言葉の省略もあって、初めて聞いた言語のように感じました。また、日本語にない発音があって、なかなかフランス人に伝えることもできませんでした。学校では自分から積極的に話しかけに行かないと友達もできませんでした。たくさんの悩みを聞いてくれたのはホストファミリーのみなさんでした。何があっても味方をしてくれて、私が泣いていたらホストマザーまで涙を流してくれて、とっても暖かい家族で

した。もう1人、この留学で、たくさん助けてくれた人がいます。それは同じクラスにいた台湾からの留学生です。名前はミミと言います。留学生同士で困ったことも助け合えたし、友達ができなかった私と毎日一緒にお昼ご飯を食べてくれて、学校が終わった後私のバスの時間まで1時間以上一緒に待っていてくれました。日本からもフランス現地でもたくさんの人たちに支えられて1年間の留学生活を送ることができました。私はこの留学を通して、言語だけでなく、精神面も強くなることができました。たくさんの出会いをすることができました。最高の宝物となった留学生活の機会を与えてくださったロータリーの方々、ご協力いただいたすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。